日本女医会誌
復刊第 200 号
2009 年 10 月 25 日発行
題字　吉岡彌生

巻頭言

新しい世紀に向かって

会長　小田泰子

日本女医会誌が200号を迎えたことを嬉しく思います。第二次世界大戦下の紙不足と戦争による混乱で1944（昭和19）年から発行が中断されていた『日本女医会雑誌』は、世の中が漸く落ち着きを取り戻した1958（昭和33）年に『日本女医会誌』と名称を改めて復刊されました。この時編集を担当したのは1911（明治44）年、東京女医学校卒（第4期生）の福田幹でした。以来これまで、多くの編集者と執筆者の働きで順調に発刊が続けられ、1984（昭和54）年に100号、そして今回2009（平成21）年に200号発刊の運びになったことを非常に嬉しく、かつ誇らしく思います。

日本女医会の歴史を記録する日本女医会誌が200号を迎え、次の世紀に向かって歩みを進める記念すべき節目に、未来に大きく羽ばたく日本女医会の生き証人として、この場にいる巡り合わせを、得難い僥倖と考えます。

この8月30日に行われた第45回衆議院選挙で、民主党が圧倒的な勝利を納め国会の色を大きく塗り替えました。社会は変わるのです。物言わぬ人々は決して社会に関心がない訳でも社会を見ていない訳でもありません。同じように、日本女医会に関心を持ち、注目している物言わぬ多くの人がいます。常に緊張感を持って効率的に会が運営されれば、より多くの女性医師が日本女医会に参加し共に活動してくれると信じています。女性医師の悩みを共有し解決する方策を真剣に考えるのは日本女医会だけだからです。

鉄の宰相と言われたサッチャーさんの語録に「政治の世界では語りたいことがある時には男性に、為したい事がある時には女性に相談せよ」とあります。「男性は語り、女性は実現する」性であると理解していたのです。

歴史を踏まえ、かつ因習にとらわれず、変化を恐れず、虹の彼方を目指し、「有言実行」を旗印に次世代に輝かしい日本女医会をバトンタッチすべく日々の活動を続けて参りましょう。

日本女医会誌（第200号）もくじ

巻頭言……小田泰子（1）
◆お詫びと訂正　199 号巻頭言 ……山崎トヨ（2）
◆ 200 号に寄せて
社会貢献活動を報道する本誌に期待 ……橋本葉子（2）
感無量の 200 号 ……中濱昌子（3）
会員のよりどころ、強い絆として ……石原幸子（3）
日本女医会と私 ……鹿田儀子（3）
ひとりでも多くの方に読んでいただけるように
……角田由美子（4）
大変ながら楽しかった広報部 ……稲生　襄（4）
充実した活動ができたことに感謝 ……大坪公子（5）
◆女性医師支援事業のご紹介
女性医師支援委員会のこれまでとこれから ‥荒木葉子（6）
『日本女医会史』は近代日本女性医師の歴史
……藤川眞理子（6）
『あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～』出版報告……津田喬子・荒木葉子（8）
◆日本女医会　第 28 回学術研究助成報告
……大久保由美子、藤巻わかえ（9）
第 12 回ブロック懇談会報告……古賀詔子（10）
◆委員会報告
子育て支援委員会報告 ……対馬ルリ子（11）
長寿社会福祉委員会について ……松井ひろみ（12）
第 4 回 在宅高齢者の栄養管理講習会報告（岐阜）
……宮﨑千惠（12）
第 5 回 在宅高齢者の栄養管理講習会報告（札幌）
……濱田啓子（13）
国際女医会ニュースリリース
2010 年国際女医会議、2011 年国際女医会西太平洋地域会議 ……内潟安子（14）
書評『つる様万華鏡－小出つる子遺稿集』
……窪　斐子（15）
第 53 回日本女医会総会 講演会
「現代の忘れもの」第四回 ……渡辺和子（16）
日本女医会よりご案内 ……（19）
理事会議事録……（21）
会員動静 ……（24）
編集後記 ……（24）

◆お詫びと訂正

199号会誌の編集作業の手違いで、山崎トヨ副会長の「巻頭言」の後半部分が掲載されませんでした。山崎トヨ副会長ならびに会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫び申し上げますとともに、改めまして全文を掲載させていただきます。

199号「巻頭言」

第54回定時総会を終えて

―あなたがメンター、あなたがロールモデルです―

副会長　**山崎トヨ**

先の見えない世界的な不況の中で信じられない悲しい事件が目立つ昨今ですが、皆様にはお健やかにご活躍のことと存じます。

第54回日本女医会定時総会が5月17日大阪市にて開催され、ご出席の先生（20代～90歳）方のご協力を得て無事に終了しましたことを心からお礼申し上げます。この度の開催に際し、日本女医会大阪支部会員の皆様並びに大阪府女医会の皆様の献身的なご尽力に深く感謝いたしております。天候にも恵まれ、メキシコ発新型インフルエンザに巻き込まれなかったのは何より幸運でした。

国際女医会会長・平敷淳子先生と九州大学副学長・水田祥子先生のご講演は大好評でした。ご立派なメンターでいらっしゃるお二人の先生のお話を身近に拝聴でき、私たちの大きな励みになりました。

16日夜の懇親会に先立ち、前日本女医会会長・橋本葉子先生の叙勲を会員一同でお祝いいたしました。懇親会でのディナー、ソプラノにも大満足し、オプションの宝塚歌劇観劇ではさらに大感激でした。コンパクトな日程でしたのに、すばらしいプログラムの企画と実行力のお陰で、忘れられない大阪の思い出ができました。ありがとうございました。

さて、今年の医師国家試験合格者の34.2%は女性で、女性医師は年々増え続けています。若い女性医師が仕事を継続させるためには、本人の使命感は勿論、職場での環境整備（職場・家庭内の意識をかえることも含む）も必要です。日本女医会は3年前に「女性医師支援委員会」を立ち上げ「女性医師のためのキャリアアップセミナー」を開催し、また、私たちの経験が少しでもお役に立つのなら、との思いをこめて“あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～”という本を作りました。しかし一番わかりやすく参考になるメンター、ロールモデルは、それぞれの地域でそれぞれの立場で“今”を生きていらっしゃる会員の先生方ご自身です。どなたも厳しい研修、医局時代を経験してからの病院院長、教授、勤務医、開業医等であるからです。

日本女医会は、結婚、妊娠、出産、子育て、復職など、女性医師に特有の問題の解決に努力しながら、ワークライフバランスのとれた女性医師支援にこれからも力を入れて取り組んでいきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（女性医師支援以外にも種々活動しております。詳しくはホームページをご覧下さいませ）

200号に寄せて

社会貢献活動を報道する本誌に期待

前会長（東女医学内支部）　**橋本葉子**

1958年に『日本女医会誌』第1号が発行され、早や200号を迎えることになりました。衷心よりお慶び申し上げます。

日本女医会の創立は1902年ですが、1912年に『日本女医会雑誌』が創刊され、年に2回発行されました。順調に発行されておりましたが、太平洋戦争末期の1944年第119号を以て発行不能になりました。

戦後の混乱・復興期を経て、1955年5月に日本女医会戦後再建第1回総会が日比谷松本楼で開催され、会長に吉岡彌生先生が選ばれました。1958年5月に日本女医会第3回総会が松本楼で開かれ、『日本女医会雑誌』を『日本女医会誌』と改称して復刊することが決まり、ほぼ年に4回の発行回数で現在に至っていると思います。題字は吉岡彌生先生の縦書きの書でした。

2004年1月発行の第177号までの紙面は縦書きでしたが、2004年4月号の第178号から横書きになりました。会誌の年号も西暦に変更されました。これは、同年の夏に日本で2回目の国際女医会議を東京で開催することになったのがきっかけになったと思っております。題字は吉岡先生の書を横書きにさせていただいたと記憶しております。

復刊第1号以来、編集委員は何回か変わりました

が、日本女医会の活動内容を忠実に伝える役割を果たして参りました。特に、1969年に社団法人格を取得した後は、いろいろな社会活動を的確に表現し、記録に残す必要性が高まり、現在のようなフォーマットで続けることになりました。近年は更に公的支援、例えば独立行政法人福祉医療機構の助成金を活用しての事業も増え、活躍の場を広げているのがよく分かります。

日本女医会誌は、日本女医会が社会貢献に重点を置いた会であることを報道する会誌として、今後も更に発展することを期待しております。

感無量の200号

元副会長（神奈川支部）　**中濱昌子**

日本女医会誌200号おめでとう存じます。

20何年か前に広報部を担当した者として感無量です。以前は縦書きでした。昔人間の私は縦書きの会誌にノスタルジアを覚えます。しかし時代も変わったのですから現代は横書きが一般的なのだと納得しております。会誌により日本女医会の動き、特に若い先生達の活発な動きが拝察されて頼もしく毎回読ませていただいております。

今後も益々日本女医会誌の充実、日本女医会の発展をお祈り申しあげます。

会員のよりどころ、強い絆として

元副会長（練馬支部）　**石原幸子**

会誌発行200号、おめでとうございます。

歴史をひもときますと、初代会長前田園子先生の発案により大正2年に発行されたのが、女医会誌の始まりの様です。

当初、荻野吟子先生も発行を楽しみにしておられましたが、それをまたず死去されたことは無念であったことと思います。当時の会誌には葬儀の模様が詳しく載せられて居ります。

雑誌としては質素な表紙の小さなものでしたが、本文は時に44頁に亙り大正14年24号まで年2回発行され12年間続きました。この流れが時代に沿って色々な形に変わり、今日の会誌になったのではないか、と私は推察しております。

いずれにしましても80年間、日本全国の女医の地位向上に、新しい知識の普及に努めた女医会誌に心からの賛辞を送り、これを続けた編集者の御苦労に感謝いたします。

今後益々充実した内容が会員のよりどころとして強い絆となる様、祈念致します。

日本女医会と私

前副会長（北支部）　**鹿田儀子**

200号発刊、心よりお祝い申し上げます。

女医会に入会したのは大学卒業の時（この時は卒業生全員が入会）、その後新米医師、子育てと日本女医会のことは全く失念して自然退会、そして子育ても落ち着いた頃、ドイツ、ベルリンで国際女医会議が開催されると知り、クラスメート6名とで再び入会しました。この時は、ドイツに旅行できることが第一の理由で、会員としての自覚など全くない申し訳ない入会でした。しかし、この時の国際女医会議出席で多くの先輩、そして他の国の女医さんとの交流が自分の立場を考えるきっかけとなりました。

スタートは何とも恥ずかしいことでしたが、非常に多くのことを学ぶことができました。今若い女医がメリットがないからと入会しませんが、大きな声で、自信を持って入会を勧めたいと思います。医学を志した一人として自分のいる狭い環境の中だけでなく、多くの先輩たちが社会に、また我々後輩たちにいかに貢献してくれているかを知ることで、これからの自分の進むべき道標になると考えます。

理事として14年の間に日本女医会百周年記念事業、国際女医会議（東京で開催）と関わることができ、幸せでした。困難もありましたが多くの会員の勇気と団結で無事成功することができ、その達成感は女医会員であったことをあらためて嬉しく、また感謝の気持ちでいっぱいでした。どちらの会も終わった時、言葉では表現できないこみ上げるものを感じました。

医師として社会に貢献することは言うまでもありませんが、後に続く女医がより以上の力を発揮できるよう環境を整え、日本女医会ならではの視点で活動していくのが私たちに課せられた使命と思います。多くの先輩たちが懸命に続けてきた意義ある活動を途絶えさせることがあってはならないと考えま

す。どうぞ全国の女医の皆さん、まずは入会してみてください。きっと良かったと思うようになります。

日本女医会のますますの発展を心よりお祈りいたします。そしてこれからもご指導ください。

ひとりでも多くの方に読んでいただけるように

前副会長（練馬支部）　**角田由美子**

会誌200号発行、おめでとうございます。ここまで続けて来られましたことは、関係各位の並々ならぬ努力の賜と感謝しております。

僅か２年間だけでしたが、私もその発行に関わらせて頂きました。広報担当理事、事務方、出版社の方々がそれぞれに知恵を出し合って、よりよい紙面が作られていく様を目の当たりにして、「会員の皆様、会誌が届いたらどうか隅々まで読んで下さい」と願わずにはいられませんでした。

女医会員としては日の浅い私ですが、支部長になり、その後役員として８年間本部の仕事をさせて頂きました。最後の２年間は副会長も務めさせて頂きました。

日本を冠に頂く組織の中で役員として務めたことは、私の中で貴重な体験となっています。

その間、創立百周年記念式典と国際女医会議を経験し、最後は「たんの吸引」の講習会事業の委員として各地で講習会を開き、充実した日々を過ごすことが出来ました。

私の女医会役員としての年月は、先輩役員に手を引かれての道ですが、非常に幸運な日々であったと思います。

男女共学の大学を卒業した私は、大学病院勤務時代は日本女医会の存在を知りませんでした。開業して地区医師会の女性医師の会で、日本女医会への入会を勧められました。が、何となく縁遠い会に思えて数年がたち、いざ入会して東京都支部連合会や総会に出席してみて、目を見張る思いでした。会員の皆様が若々しく活発に活動される様子を目の当たりにして、何故もっと早くから入会していなかったかと悔やまれました。

幸いなことに、私は入会間もなくから支部長になり本部の役員にもご推薦頂き、会の活動に積極的に関わることができました。ただ入会しただけでは日本女医会のことはわからなかったと思います。会員の皆様、会誌にてお知らせのある各種の活動に、どうか積極的にご参加下さい。

入会した時からいつも、いかにしたら会員を増やせるか、いかにしたら会員が会の活動に参加して下さるかを考えて来ました。この200号記念誌が、一人でも多くの方に隅々まで読んで頂くことができ、そして一番良い方法だと思われる、口から口への勧誘に役立ってくれることを切に希望しています。そして日本女医会がますます発展して行きますように。

大変であったが、楽しかった広報部

元広報部（神奈川支部）　**稲生　襄**

私は日本女医会広報部を昭和63年から平成８年まで３期９年間と、その前に会計部を１期３年間やらせて頂いたので、合計12年間関わらせて頂いた。

主として広報部について書かせて頂くが、日本女医会一般についても語らせて欲しい。広報部は当時の副会長・中濱昌子先生を先頭に小田泰子先生（現会長）、大坪公子先生、昨年故人となられた野澤良美先生と稲生等であった。小田先生は仙台市から遠方で大変だったことと思うが、必ずご出席下さった。金剛出版の渕上さんも親切な方であった。原稿集め、校正は大変であったが皆楽しそうに実施し年４回の発行を行った。

◎昭和59年５月26日、第29回定時総会が横浜市県民ホールにて開催され全国から206名参加。中山恒明先生（東京女子医大消化器病センター名誉教授）の『医の倫理』の講演があり、好評であった。

◎平成７年２月９日～11日、阪神大震災女医会医療支援に山崎倫子先生はじめ、故佐藤千代子先生、故白浜光子先生、稲生、他合計10名位が参加したが現地の方々に大変喜んで頂いた。

◎平成８年４月、神奈川支部創立30周年記念総会開催、“支部だより”30周年記念号が発行された。

◎2001年（平成13年）佐賀市での日本女医会総会が開催され参加した。

◎2002年５月完成の『日本女医会百年史』の編集委員として携わる。

◎年１回７月頃開催の神奈川支部総会（横浜市にて）は毎年参加している。

医師の減少が叫ばれているが、最近では女性医師

200号に寄せて

が30％位を占めるようになっている。出産、育児にて辞めてしまう者が往々にしてあると聞いている。折角取得した医師免許を放棄しては吉岡彌生先生に対しても申し訳ないと思う。東京女子医科大学卒業では大森安恵先生、平敷淳子先生、大澤真木子先生、斎藤加代子先生も立派に子育てをしながら教授職に徹しておられる。本当にすばらしい方々だと思う。

子どもは必ずしも親が全面的に面倒を見なくとも立派に育つ、よきアシスタントを得て、尊い医師という職責を生かすべきだと思う。

私は日本女医会理事を辞めた平成9年4月、大坪先生、故野澤良美先生、中濱先生、私の4人で伊豆長岡町“古奈ホテル”へ「お別れ会」と称して保養に行った。観光の後おしゃべりをしながらの食事はとても思い出深いものであった。

左から、故野澤良美先生、大坪公子先生、手前が稲生嚢先生、右後方が中濱昌子先生

充実した活動ができたことに感謝

前広報部（世田谷支部）　**大坪公子**

平成6年5月、日本女医会理事となり、広報担当を命じられて以来、平成20年5月まで「日本女医会誌」の発行に関わって参りました。

平成6年当時、会長は佐藤千代子先生、会誌編集人は稲生襄先生でした。中濱昌子副会長をはじめ皆様情熱を持って、発行の仕事に当たられておりました。年4回の発行のために年8回以上女医会本部に集まり、制作の金剛出版の渕上さんと検討を重ね発行しておりました。

平成9年8月（第151号）から私が編集人となり、責任を強く感じて仕事に当たりました。平成10年5月から橋本葉子先生が会長となられ、熱心に広報部の指導をして下さいました。編集会議にはほとんど出席して下さったので、楽しい会議ができました。平成12年4月（第162号）より、会誌に広告を載せることになりました。平成13年10月（第168号）より、文字をやや大きくし、読みやすくしました。

平成14年（2002年）5月に『日本女医会百年史』を刊行しました。これは大きな仕事で、広報部員は制作会社の株式会社ぎょうせいと何度も会議を行い完成にこぎつけました。

平成14年7月（第171号）は、日本女医会100周年記念式典特集号とし、上質の紙を使いカラー写真をたくさん載せた紙面にしました。

平成16年4月（第178号）より、紙面を横書きとし、文字もやや大きくし、制作もあづま堂印刷に変更しました。とても大きな変更でした。

平成16年11月（第179・180号、合併号）は、第26回国際女医会議特集号とし、大成功を収めた国際会議（新宿京王プラザにて開催）の内容についてカラー写真をたくさん入れて、余すところなく伝えるようにしました。上質の紙を使用し、楽しい会誌になったと思います。

平成18年5月より小田泰子会長となり、平成20年4月（第194号）まで14年間広報部に関わり、会誌の発行を続けて参りました。皆様のご協力により役目を果たすことができましたことを感謝申し上げます。

広報部は、日本女医会の考え方を正しく会員の皆様に伝えること、その活動を記録として残し、後世に伝えること、女医会の発展に寄与することを目的として活動してきました。充実した活動ができたことを感謝申し上げます。

この間に歴代の会長を始めとし多くの優れた先輩がメンターとして私を鍛えて下さいました。日本女医会には個性豊かな先生方がたくさんいらして大変楽しい会なので、会員がもっともっと増えていくように希望します。

［女性医師支援事業のご紹介］

女性医師支援委員会のこれまでとこれから

理事（女性医師支援委員会委員長）　荒木葉子

日本女医会のミッションのひとつに「女医相互の研鑽、親睦および地位の向上」が掲げられています。支援ではなく、研鑽や向上という言葉が使われていることに日本女医会の高い目標を感じることができます。

女性医師支援については、以前は女性医師環境整備小委員会があり、1999年に「女性医師の働く環境の改善と支援体制の整備拡充に関する要望書に対するアンケート調査」、2000年に「女性医師の学会に占める女性割合、女性医師の地位、専門医取得率の調査」、2004年に7大学同窓会の協力により、「卒後11～15年目医師の労働実態に関する調査」を行い、同時にキャリアシンポをスタートさせました。

2006年に小田会長体制が発足し、女性医師支援委員会が新たに立ち上がりました。各部局を横断する形で結成され、現在は、山崎トヨ、津田喬子、澤口彰子、澁谷きよみ、塚田篤子、対馬ルリ子、藤川眞理子、宮﨑千恵、矢口有乃、山田邦子（敬称略）、荒木葉子がメンバーです。

女性医師支援委員会は、女性医師の課題に対し総研としての役割を果たし当局に要求していくこと、自らが実践できることを速やかに推進すること、とし以下のような活動を考えています。

1. シンポジウムなどによる問題提起
2. 調査・研究
3. 資料・調査研究の収集
4. ネットワーク
5. キャリアカウンセリング・メンター制度
6. 広報活動

2007、08年には、キャリアデザインセミナーを行い、キャリアを自らデザインする手法を学ぶとともに、ロールモデル講習を合わせて行いました。各所で女性医師に関する調査報告が出たものの一元化されていないため、本年度は、日本女医会のホームページにライブラリーを作成し、まとめて閲覧できるようにしました。全国の支部組織や他団体とITを利用したネットワーク作りも検討しています。藤川先生により、女子医学生の支援も開始され、津田先生を中心に、書籍『あなたらしいキャリアを創ろう』も出版されました。

10月25日は、女性医師の最初のバリアである保育問題を解決すべく、キャリア・シンポジウム「女性医師が働き続けられる環境の実現に向けて」を開催予定しています。キャリア・シンポジウムは、今後も女性医師の課題を継続的に取り上げ、解決の道を探っていく予定です。

日本女医会は、1985年、95年に大規模調査を行っています。2004年から臨床研修医制度が開始され、医療人材政策、医師の意識に変化が見られます。これからの女性医師の動向について、新たな調査研究も望まれています。

今後、女性医師の諸問題を俯瞰的に捉え、提言していくことのできる組織として皆様とともに活動してまいりたいと考えています。

『日本女医会史』は近代日本女性医師の歴史

―ポスターで伝えたかった先駆者達の熱き思いと日本女医会会員である喜び―

事業部　藤川眞理子

平成21年6月26日内閣府・男女共同参画局主催の「平成21年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」の開催に併せて関係団体による「パネル展示」が企画され、内閣府男女共同参画推進連携会議副議長でいらっしゃる橋本葉子日本女医会前会長から日本女医会からも是非ポスターを作成して出展するようにとのことで、小田会長と松井副会長から事業部に要請がありました。締切まで1カ月間、理事の皆様から頂戴したご支援に心から感謝申し上げます。

ポスター作成に当たって当然ながら日本女医会の歴史を振り返る必要があり、昭和37年に発行された『日本女医史』をあらためて読みなおしました。日本女医会の存在すら知らない女性医師、女子医学生に『日本女医会史は近代女性医師の歴史』であることを強烈に感得していただきたいものと心から思いました。

迫害を受けながら近代の女性医師として公許第一号を勝ち取った荻野吟子先生に続いて医師となった前田園子先生などが、「全国の女性医師を以って会員」とするべく日本女医会を立ち上げた背景には、

日本女医会ポスター

第1部：日本女医会107年の歴史

第2部：日本女医会の活動と国際女医会の支部活動、日本女医会からのメッセージ

だったと思います。

日本女医会の歴史を振り返る時に、その重さに圧倒されるとともに温故知新という言葉を当てはめるのが虚しく感じるくらい一世紀前の女性医師への批判が今も実は変わっていないことに、女性医師に対する意識変革がなされていない現実に、愕然たる思いがしました。例えば、明治41年（1908年）東京女医学校の第一回目の卒業式では女性医師に反感を持つ雑誌記者達が「女子に高等教育を授けることは、自ら晩婚となり、或いは独身生活を余儀なくさせる基となる。日本の人口を減らすことは、国家の危機を招く」、「女は妊娠して仕事を休む、人命を委される医師には不適当である」等々の論旨の女性医師亡国論を喚起し式場内は騒然

当時の女性医師を認めたくないと排斥する圧力の強大さがあります。女性医師の社会的地位を高めるためには、学術的なレベルをあげるとともに、パワーに潰されないよう処世の術も磨き、手を携えあう日本女医会は、当時の女性医師にとっては必須の存在

劇薬
処方せん医薬品：注意ー医師等の処方せんにより使用すること

5-HT1B／1D受容体作動型片頭痛治療剤

マクサルト®錠10mg
マクサルトRPD®錠10mg

〈リザトリプタン安息香酸塩錠・口腔内崩壊錠〉［薬価基準収載］

販売元
エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

製造販売(輸入)元
杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台2丁目5番地

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社
お客様ホットライン 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

08-2004-MXT-01-KYO-012-O

マクサルト®は米国メルク社の登録商標です。

2009年3月作成
MAX0903-5

となりました。この事態に、早稲田大学創始者である大隈重信公が立ち上がり「（女子の高等教育及び女性医師の将来について）藉すに十年ないし十五年の歳月を以ってせよ。事実に現れ来る成績の如何によって、果たして女性医師が、適当なるものか、不適当なるものかという結果がわかるのである」と迫力あるスピーチを展開し事態を収拾したというエピソードがあります。百年の歳月が過ぎ、女性医師は新卒では3割を占めるにいたりました。冥界の大隈公に対して『ご覧ください』と胸をはって謝辞を奉げたいところであります。これからの女性医師の課題の一つは「果たして女性医師は医学界で管理職として適当か不適当か」ということで、これも百年かかるのでしょうか……。

1920年から1959年まで会長を務められた吉岡彌生先生は、日本女医会とともにご自身が成長されたと書かれています。昭和3年の汎太平洋婦人会議出席や開戦直前にドイツを視察された吉岡会長ですが、戦後、戦争中休止していた日本女医会を女子医専であった関西医大や東邦大出身者に働きかけて「日本の女性医師は打って一丸となって意義ある日本女医会を結成して万国女医会（現、国際女医会）に加盟しなくてはならない」と世界に目を向けた日本女医会の再開に尽力されたのでした。

新生日本女医会は発展を辿ってきましたが、女子医専が共学化し、医学部が増え成績優秀な女子の医学部入学者が増え続けているものの日本女医会の存在を知らない女性医師も増え、残念ながら入会率は高いはといえない状況です。

日本女医会も変革の時代を迎えています。しかし、ポスター作成に当たっては、日本女医会の原点である、医師になりたくても「女はダメ」という理不尽で巨大な壁に特攻攻撃よろしく果敢にぶつかっていった偉大な先駆者の女性医師達のエネルギーを時を超えて今を生きる女性医師達に吹き込みたいと思いました。ポスターは2部製作し、第1部は日本女医会の107年の歴史、第2部は、日本女医会の活動や国際女医会の支部活動と日本女医会からの熱いメッセージを紹介しました。

日本女医会に入会をすすめると即座に「日本女医会に入ったらどんなメリットがあるのですか？何をしてくれるのですか？」という反応が返ってきます。私は日本女医会の活動のプリンシプルは『ノブリスオブリージュ noblesse obligeの精神』であってほしいと思います。与えられるばかりではなく人のために役立つ喜びを感じることができる気品のある人間に、女性として家族にとって娘や妻や母としての存在も大切にしながら、職業人たる医師としての研鑽を死ぬまで続け、更にはグローバルな視野にたって物事を考える、そんな人間になりたいと願っています。実は、大勢のそのような素晴らしい先輩、同輩、後輩の会員と交流させていただけるのが日本女医会員の最大のメリットです。

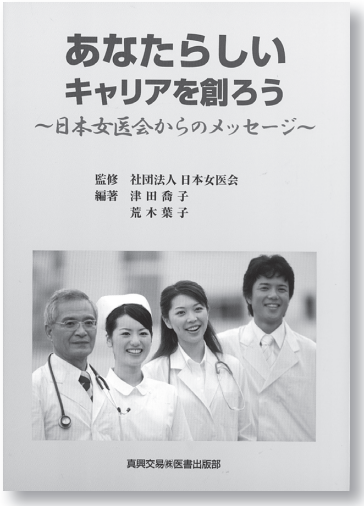
日本女医会とは如何なる団体なのかを知っていただき、年齢に関係なく日本女医会のために自分に何ができるかを考え積極的に活動し、日本の医療制度における女性医師のありかたについてのオピニオンリーダーを目指す日本女医会の支柱となるエネルギーが横溢した女性医師や女子医学生に入会していただく動機づけに、このポスターが少しでもお役に立てばと心から願っております。

津田副会長や古賀理事を始め貴重なご意見を頂いた皆様に感謝申し上げます。

小田会長を始め、理事の皆様から良いポスターができたと評価していただき、日本女医会員である喜びと達成感に感謝の念を深くいたしております。

『あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～』出版報告

副会長　**津田喬子**
理事　**荒木葉子**



監修　社団法人 日本女医会
編著　津田喬子　荒木葉子
A5判・236ページ
定価2,520円（税込）

2008年の10月頃、女性医師支援委員会のメンバーは日本女医会らしい女性医師支援のあり方を模索していました。まずは、私たちが次世代の若い人に託したいことをアピールしよう、私たちの経験を役立ててもらうメッセージを伝えよう、対象者集めが困難な講演会以外の方法はないか、など検討するなかで、書籍の発刊という新しいアイデアが生まれました。

これまでに、日本女医会は創立百周年記念の出版事業として2002年に『日本女医会百年史』と『世界最

初の女性医師〜エリザベス・ブラックウエルの一生〜』を発刊していましたが、今回は、進路形成に悩んでいる女性医師・医学部生に近い年齢（お姉さん世代からお母さん世代まで）を対象に、すぐに役立つ知恵袋あるいは医者(医師)を続けるコツといったような実用的な内容にすることとなりました。

出版は医学書を中心に扱う真興交易株式会社が協力してくださることとなり、価格は3,000円未満、執筆者は理事を中心に25人程度、但し地域性や専門性が偏らないことを考慮して理事以外の方からも執筆を募る、一人の担当は刷り上がり数ページとするなど、出版社と女性医師支援委員会を中心に進めてまいりました。

こうした本を通じて各地域で会員の獲得に努めていただきたいこと、これを読んだ若い医師が直接、理事とコンタクトをとってキャリア形成に役立てていただくことも期待し、執筆者の皆様にはご協力いただきました。

当初、出版時期を2009年5月に大阪で開催予定の日本女医会第54回総会に間に合うようにと計画しましたが、残念ながら間に合わせることができませんでした。急がせましたが脱稿下さった皆様と出版社の担当者様には心よりお詫びを申しあげます。

今、日本女医会は医学生も含めた女性医師支援のさまざまな活動を行っています。ただ単に女性に手を差し伸べることの功罪も明らかになってきました。この本は、医師というキャリアを継続することの困難を体験し、そして克服した皆様の軌跡です。これからのキャリアプランを模索している医学生、若い女性医師には素晴らしい道しるべとなるでしょう。さらに、同世代の皆様にはエールとなると思います。是非とも多くの方にご紹介いただけますようお願い致します。

最後となりましたが、執筆者の皆様そして出版にご尽力くださいました真興交易株式会社の橋内千一社長、石田勝久氏、眞下文江氏に心より感謝申し上げます。

日本女医会　第28回学術研究助成報告

女子医学生および女性医師の職業意識を規定する因子に関する研究

文京支部
大久保由美子

掲題の研究課題に対し、大変有難いことに学術研究助成を賜りました。受賞が大いに研究の励みとなりましたので、この1年間の研究報告をさせて頂きます。

本研究は女子医学生と女性医師の持つ資質・特徴・職業意識を分析し、卒前・卒後・生涯教育に活用することを目的としています。女性医師が継続的に医療現場で活躍するには職場環境の整備が急務であることはもちろんですが、女性自らが高い職業意識と自立心・社会的責任感を保持することが、離職防止に重要と考えられます。

これまでに2008年度および2009年度の東京女子医科大学医学部学生1年生から6年生にアンケート調査を行いました。医師になりたい程度、医師を志す理由、仕事への興味・感情、責任感、奉仕の精神、慈しみの心、ロールモデルの有無、同性・異性・異年齢層の患者・患者家族・医療従事者とのコミュニケーション能力、人生設計、収入・最新医療・医療過誤など医師を取り巻く社会情勢への関心などを調べました。

入学直後では多くの学生が医師を志す気持ちが強いと答えているものの、医学部進学は自らの希望ではなく他者の勧めによる学生も少なくありませんでした。各学年で医師を志望する程度が強い学生には、志望動機として自己や家族の受傷または疾病体験、家族や知人の死などを挙げる者が多く見られました。学生のコミュニケーション能力の向上には、低学年ではテュートリアル、クラブ活動やアルバイトなどの校外活動が、高学年では臨床実習が役立ったとの意見が多く見られました。入学当初と比し、医師を志望する程度が下がったと答える学生が各学年で若干名見られ、対応が必要と考えられました。いずれの学年においても、将来の人生設計や就労継続について不安を感じている学生が多く見られました。今後も職業意識に関する重大な経験暴露の有

無、対象者の属性などを分析し、職業意識を規定する因子について横断的および縦断的に解析していきます。さらに女性医師に対しての調査も行う予定です。

本研究が女性医師の確保と社会貢献に関する研究、女性医師のキャリア形成のための教育方法と教育評価方法の開発の一助となることを期待し、今後も研究を続けて参ります。

小児期のアレルギー性疾患に関する免疫学的基盤の解析

東女医学内支部
藤巻わかえ

掲題の課題名で研究助成を頂きました。アレルギー性疾患では、T細胞の中でもTh2細胞の果たす役割が大きく、Th1やTh2への偏向がどのように行われるかが問題になります。偏向過程に関わる因子の1つとして、制御性T細胞があります。これはT細胞の活性化を抑制する細胞で生体内の免疫反応を制御しますので、アレルギー・自己免疫疾患・感染症・癌免疫・移植免疫などに大きく関わると考えられています。本研究では、制御性T細胞の機能を新生児と成人で比較しましたので、ご報告いたします。なお、本研究の結果は、Clinical and developmental Immunologyに掲載されました[1)]。

制御性T細胞に特徴的な機能は、自身が増殖することなく、他のT細胞の増殖やサイトカイン産生を抑制することです。これらの機能は制御性T細胞に特異的に発現している転写因子FOXP3に因ります。また、制御性T細胞の分化成熟は胸腺の中で行われますが、その経路は他のT細胞とは異なります。そこで、各成熟段階の制御性T細胞の機能を検討するために、ヒト胸腺・臍帯血・成人末梢血から制御性T細胞を分離精製して、他のT細胞の増殖やサイトカイン産生に対する抑制機能を調べました。その結果、臍帯血由来の制御性T細胞では、胸腺や成人末梢血由来のものに比べて、FOXP3の発現が弱く、増殖抑制やサイトカイン産生抑制の働きも弱いことが明らかになりました。また、制御性T細胞は特定の条件下で増殖することが知られていますが、機能的に弱い臍帯血の制御性T細胞も、増殖させると、成人に優るとも劣らぬ機能を示すようになることがわかりました。成人末梢血の制御性T細胞の中には臍帯血中のものに近い細胞が少数存在することが分かっておりましたが、今回その様子をFOXP3の発現レベルなどとともに明らかにすることもできました。

以上、臍帯血中の制御性T細胞は、見かけ上の機能は弱く、個体の成熟とともに変化していくことを示しました。具体的に小児のアレルギーや感染症にどのような影響を与えているのか、今後の検証課題であると考えています。

1) Fujimaki,W. *et al*: Comparative Study of Regulatory T Cell Function of Human $CD25^{+}CD4^{+}$ T Cells from Thymocytes, Cord Blood, and Adult Peripheral Blood. Clinical and developmental Immunology, Article ID 305859, 2008

第12回 ブロック懇談会報告

理事　**古賀詔子**

平成21年9月6日（日）11：00～13：00、福島ビューホテルに於いて、第12回ブロック懇談会を開催した。福島県内から、女性医師13名と福島県立医科大学5年生7名のご参加を頂き、日本女医会からは、小田会長、松井副会長、小関、澁谷、宮本、山本、古賀の各理事、福島支部の福田先生が参加した。福島県の先生方の就業形態は、勤務医5名、開業医6名、研修医2名であった。今回は、福島県医師会理事の本多静香先生（西口クリニック婦人科理事長）のネットワークで、年齢層の広い活発な会となった。

古賀が司会を担当させて頂き開会。小田会長が挨拶に引き続き、パワーポイントを使用しての日本女医会の紹介を行った。次いで、小関、澁谷、山本、松井の順番で本会各委員会活動について紹介。その他として、宮城県医師会が宮城県に提出した「女性医師支援事業案」についても、資料に基づき山本理事が説明した。

その後、昼食をとりながらの懇談に移った。女医会参加者の自己紹介に続いて、本多先生から福島の参加者をご紹介頂いた。懇談の中では次のような発言があった。①夫は東京勤務で自分は福島で子育て中。保育園の問題に苦慮している。②留学を希望しているが、女医会の先生方に経験者はいるか。③女医会の先生方はバリバリ仕事をしていると思うが、お子さんはいるのか。④子育てと仕事の両立を、母親としてどう考えていたか。⑤子どもが生まれたら子育てに専念したいが、どうだろうか。

これらの声からは、若い世代が将来の自分の女性医師像に、少なからず不安を抱いていることが伺える。中には「子どもを産めば当直をしなくて済む」「仕事を辞めたいから結婚したい」と語る、若い女性医師もいるそうである。各々モチベーションが異なり、これからの女医会は一枚岩では行かないだろうとも思う。

未来を担う若い女性医師には、結婚や育児で医師というキャリアを中断して欲しくない。日本女医会が、今後も「女性医師が仕事を継続できる環境作り」を考えて行くことの重要性を、改めて感じた。

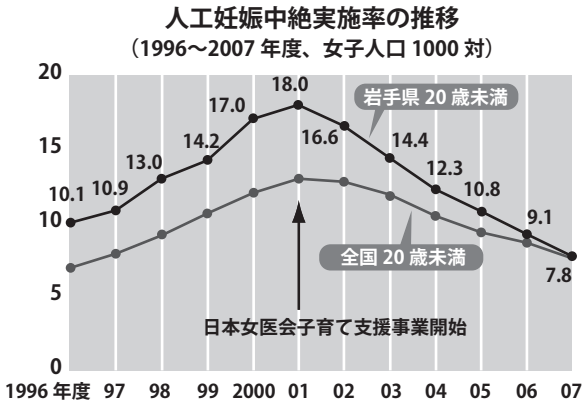
委員会報告

子育て支援委員会報告

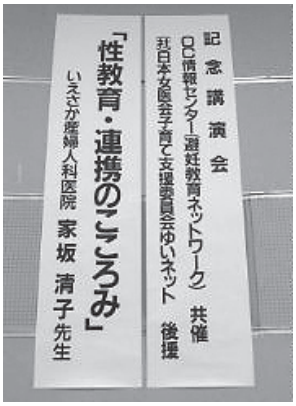
理事　**対馬ルリ子**

子育て支援委員会ゆいネットでは、7月23日（木）盛岡市岩手県民会館で2回目の連絡協議会を開催しました。昨年にもまして多数の関係者が集まり、県立二戸病院産婦人科の秋元義弘先生と岩手医科大学産婦人科医局長の庄子忠宏先生が話題提供してくださって、熱心に岩手県下の十代の問題について話しあいました。岩手では、2001年の20歳未満の人工妊娠中絶率が千人に対して18.0と全国ワースト2位の高さだったため、医師会、産婦人科医会、県立大学看護学部、保健所、県警などが協力して、学校現場での性教育を充実させたり、相談事業をしたり、大学生や看護学生がピアカウンセリングを行ったりと、さまざまな試みをしたそうです。その中で、2001年から日本女医会が行った「十代の性と健康指導者養成講座」が一助となったことも事実だそうです。2007年度の岩手県の20歳未満の人工妊娠中絶率は7.8と、約6割減少しています。

この懇親会の席上で、岩手の思春期問題について話し合う場を思春



※母子衛生研究会編集「母子保健の主なる統計」より



期研究会としてたちあげる話が出ているとのことで、ゆいネットも全面的に協力する約束をし、9月5日（土）の立ち上げには日本女医会ゆいネット後援、対馬がゆいネット代表で参加し、設立集会が開かれました。この会の副会長になった臼井由紀子先生は、以前は開業医として小児科診療に専念していたが、日本女医会の指導者養成講座に参加して以来、自分なりに思春期の性の問題について勉強するようになり、学校にも性教育に出向いて、最近はずいぶん講演や相談の仕事が増えているそうです。ゆいネット委員の斉藤恵子先生も、少年刑務所で体とこころの相談を行って、性犯罪者の再犯予防教育に力を入れておられます。親や教師や行政が取り組みにくい子どもたちの性の健康問題について、日本女医会の先生方が専門家として地域貢献されている姿は素晴らしいと思いました。

11月7日（土）は岡山で連絡協議会が開かれます。ご興味のある先生は、ぜひご参加ください。

また、来年度のモデル地区事業に関しても、ぜひご意見をお寄せください。お待ちしております。

委員会報告　長寿社会福祉委員会について

副会長　**松井ひろみ**

本年8月医療的なケアを提供するニーズの高まりを踏まえ、厚労省のモデル事業が開始され、まずは特別養護老人ホームの介護職による医行為の対応が22年度からスタートする方向です。日本女医会は、介護に関わる方々と共に医行為を安心・安全に行う為の教育講習を全国で実施し、着実にその成果を上げて来ております。独立行政法人福祉医療機構からの助成を受けて行って来た「在宅高齢者栄養管理」講習会も第4回岐阜・第5回北海道での実施となり、それぞれ盛大で有意義な計画をされた宮﨑・濱田両理事に報告を御願いしております。更に、第6回11月7日（土）群馬・第7回2月14日（日）富山での開催を予定しております。

この地道な努力の継続がこの度のモデル事業への発展につながり、幅広い分野からの多数の参加によって日本女医会の取り組みが先駆的役割を果たしえたのだと思います。

今後とも多くの皆様の御協力、御支援を心からお願い申し上げます。

第4回「在宅高齢者医療の栄養管理」講習会報告（岐阜）

理事　**宮﨑千恵**

平成21年7月4日（土）午後1時30分より、岐阜市の十六プラザにおいて、「第4回在宅高齢者の栄養管理講習会」が開催されました。受講者は、訪問看護を行っている内科医師、病院勤務の医師の他、看護師、ヘルパーや、患者の家族など総数110名ほどでした。日本女医会から、小田会長、松井副会長、山本纊子先生の他、東京から前理事の大坪公子先生、名古屋から澁谷きよみ理事が応援に駆けつけてくださいました。

総合司会は宮﨑が勤め、まず始めに小田会長から、日本女医会の歴史や、現在取り組んでいる事業などについてのご説明、ご挨拶がありました。

続いて、後援をして下さった岐阜市医師会の山内英通会長からは、「女性医師が大変増加してきており、医師不足による医療崩壊の一因ともなっている女性医師の労働環境問題も含め、日本女医会の先生方の支援を期待している」と女性医師支援のエールをこめたご挨拶がありました。次に、この事業の委員長をなさっておられる、前理事の山本纊子先生より、この事業が国からの助成によって行われており、「嚥下障害のおこるメカニズム」の映像による説明とこうした障害を持つ人達の栄養管理の必要性について詳しくお話しされました。今回は、岐阜市医師会の後援もあり、講師の先生方は各方面に渡って多彩でした。

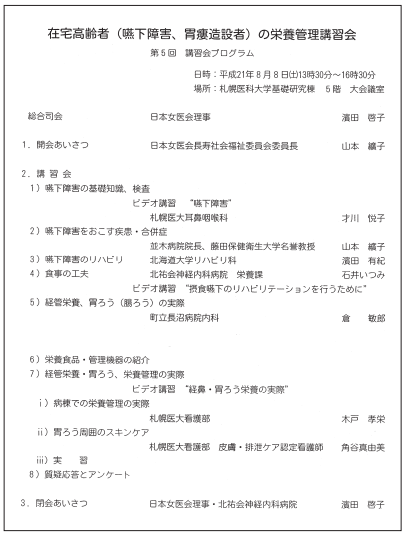
まず1部は、1）外科医の立場から山内ホスピタル外科部長宇野郷三先生による「胃ろう造設とカテーテル交換」について、2）在宅医療にも携わっている内科医として高木寛司先生の「在宅胃ろう管理とトラブル対策」、3）病院勤務の消化器内科医として高橋祐司の「栄養管理と経腸栄養剤」について、4）言語聴覚士の鈴木勝先生の「口腔ケアと嚥下リハビリテーション」についてのそれぞれの講演があり、どれも大変すばらしい内容で、参加した聴衆は熱心に受講しておられました。

2部は部屋を移して実習が行われ、5つのテーブルに、在宅介護を行っている家族を含む約15人程度の受講者が集まり、日常に在宅医療にも関わっている看護師さんから、器具を使っての詳しい説明があり、Pegの器具メーカースタッフ等のアドバイスなども加え、受講者たちからも多くの質問が出されました。最後に松井ひろみ副会長より「近年、高齢者が大変増加し、これからますます胃瘻等の必要性が増してきているので、日本女医会として、今後も出来る限りこのような講習をしていきたい」と締めのご挨拶があり、無事に講習会が終了しました。この講習会開催にあたって、後援をして下さった岐阜市医師会長の山内英通先生、高齢者医療に精通されている高木寛司先生ほか、ご協力して下さった皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

第5回「在宅高齢者の栄養管理講習会」講習会報告（札幌）

理事　濱田啓子

独立行政法人福祉医療機構「長寿社会福祉基金」助成事業の一環として平成21年8月8日午後1時半より日本女医会長寿社会福祉委員会主催で第5回「在宅高齢者の栄養管理」の講習会が札幌で開催されました。



在宅高齢者（嚥下障害、胃瘻造設者）の栄養管理講習会

第５回　講習会プログラム

日時：平成21年８月８日(土)13時30分～16時30分
場所：札幌医科大学基礎研究棟　５階　大会議室

総合司会　日本女医会理事　濱田　啓子

1．開会あいさつ　日本女医会長寿社会福祉委員会委員長　山本　纃子

2．講 習 会

1）嚥下障害の基礎知識、検査
ビデオ講習　“嚥下障害”
札幌医大耳鼻咽喉科　才川　悦子

2）嚥下障害をおこす疾患・合併症
並木病院院長、藤田保健衛生大学名誉教授　山本　纃子

3）嚥下障害のリハビリ　北海道大学リハビリ科　濱田　有紀

4）食事の工夫　北祐会神経内科病院　栄養課　石井いつみ
ビデオ講習　“摂食嚥下のリハビリテーションを行うために”

5）経管栄養、胃ろう（腸ろう）の実際
町立長沼病院内科　倉　敬郎

6）栄養食品・管理機器の紹介

7）経管栄養・胃ろう、栄養管理の実際
ビデオ講習　“経鼻・胃ろう栄養の実際”

ⅰ）病棟での栄養管理の実際
札幌医大看護部　木戸　孝栄

ⅱ）胃ろう周囲のスキンケア
札幌医大看護部　皮膚・排泄ケア認定看護師　角谷真由美

ⅲ）実　習

8）質疑応答とアンケート

3．閉会あいさつ　日本女医会理事・北祐会神経内科病院　濱田　啓子

この講習会は嚥下困難や人工栄養管理の患者さんの介護をされている家族の方やヘルパーさん、栄養士、看護師などの医療関係者を対象として行われ、スタッフも含め100人ほどの参加者がありました。

この講習会を通して医療現場では医療体制の親密性が最も重要と再認識されました。

つまり、医師（リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・神経内科・脳神経外科・呼吸器科）・歯科医師・リハビリテーションスタッフ（言語療法士、理学療法士、作業療法士）、看護師・栄養士・歯科衛生士・その他（放射線技師・薬剤師・介護福祉士・ケースワーカー等）が、チームとして有効に機能することが必要とされます。

かつ在宅療養においては摂食の安全性が優先されます。病院内であれば観察の目も多く、万一の対応も充分に行えますが、自宅ではその管理体制が問題になります。

食事形態や姿勢などに制限がある場合、また患者本人または介護者の管理能力・判断力は十分か、介護者の負担や人的資源が整っているか、場合によっては吸引機設置、誤嚥時の対処法の指導、体調不良時の相談可能な医療機関の確保など、本人・ご家族の希望と管理可能な環境を調整し、現実的かつ安全なプランを提案することが重要となります。

在宅療養中に嚥下障害が疑われた場合は、主治医に相談の上、種々の社会資源を有効利用することが必要と再認識されました。

時間が短く、盛りだくさんの内容でビデオセッションに割愛部分が多く出たことは反省点として残りました。

札幌医科大学耳鼻咽喉科教室のスタッフには大変お世話になりました。

国　際　女　医　会　●　M　W　I　A
N　E　W　S　　R　E　L　E　A　S　E

国際女医会（MWIA）本部から送られてくるいろいろなニュースをここでお知らせします。

ナショナルコーディネーター　**内潟安子**

2010 年国際女医会議

来年、2010年の国際女医会議はドイツの古都ミュンスターで開催されます。

前回の国際女医会議はアフリカ・ガーナで開催され、この会議で日本女医会前理事・前ナショナルコーディデータの平敷淳子先生が、国際女医会会長に就任されましたことが、ついこのあいだのように思い出されます。

ガーナの前の国際女医会議は、ご存知のように東京の京王プラザホテルでの開催でした。このときは日本の先生方に多くご参加いただきました。

あのときのにぎやかさ、華やかさを、もう一度味わってみませんか。そして、海外の女性医師がどのように活躍されているか、海外のいろいろな状況を知って、わが国の女性医師のための、新しい活路を発見してみませんか。

MEDICAL WOMEN'S
INTERNATIONAL ASSOCIATION
MWIA Munster Congress 2010
E-mail: secretariat@mwia.net
Website: http://www.mwia2010.net

●第２回アナウンス

1．時期　2010 年 7 月 27 ～ 31 日
2．場所　Fuerstenberghaus, Munster, Germany. (Munster is a lovely historic city in the northern part of Rhine-Westphalia. It is considered to be the cultural centre of the Westphalia region. In 2004, Munster was awarded the title of "world's Most Livable City" by LivCom Award 2004, in the category of 250,000 to 700,000 population.Munster 郊外に国際空港あり）
3．テーマ：Globalization in Medicine - Challenges and Opportunities（医学、医療のグローバル化 ― 挑戦と機会）
4．演題募集　締め切り：2010 年 2 月 28 日
5．旅行代理店：中西興産株式会社 トラベル事業部
〒 104-0031　東京都中央区京橋 1-1-1
中西金属工業（株）東京支店内
電話：03-3278-0305
ＦＡＸ：03-3278-0395
e-mail:tokuya-k@nkc-j.co.jp
担当：徳矢貢一　抄録の登録、参加登録、旅行行程など、すべて取り扱います。

2011 年国際女医会 西太平洋地域会議

1993 年に京都で開催されて以来、18 年ぶりに日本に開催担当の順番がまわってきました。本年５月の総会にて以下の開催日が承認されましたので、あらためてお知らせいたします。

総会もこの会期中に行いまして、会員の皆様には海外の会員の皆様とできるだけ多くの時間を共有して懇親の場を持っていただければと思っております。例年と異なり、総会の開催が週日になりますが、総会、西太平洋地域会議ともどもご出席を賜りますようお願い申し上げます。

日　程：2011 年 5 月 26 日（木）～ 29 日（日）
開催地：東京
テーマ：未定
参加国：日本・韓国・台湾・オーストラリア・フィリピン・モンゴル、ニュージーランド

2011 年　国際女医会西太平洋地域会議日程表

2009.9 月末現在

<table>
<tr><th rowspan="2">日　程</th><th colspan="3">プ　ロ　グ　ラ　ム（予定）</th></tr>
<tr><th>午　前</th><th>午　後</th><th>夜</th></tr>
<tr><td>2011.
5.26
（木）</td><td colspan="2">夕方から登録開始→</td><td>歓迎パーティ
（日本女医会総会参加者と一緒）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5.27
（金）</td><td>日本女医会：
総会等</td><td rowspan="2">午後3時
～
WPR会議</td><td rowspan="2">WPR会議</td></tr>
<tr><td>WPR参加者：
エクスカーション</td></tr>
<tr><td>5.28
（土）</td><td>WPR会議</td><td>WPR会議</td><td>バンケット</td></tr>
<tr><td>5.29
（日）</td><td>WPR会議</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

書評『つる様万華鏡－小出つる子遺稿集』

高知県女医会　編　リーブル出版　1,600円（税込）

この本を読むと勇気が湧いてきます。

幼児の頃から父親の手術を垣間みて育ち、自分のやりたいことを徹底的にやって90年……。やり残したこともなければやりすぎたこともない。……そんな人が現実にいるのです。

私達の心に万華鏡のように煌く人生を写し出し、耳鼻科と眼科の医者でありながら漢方にも詳しく、たくさんの患者さんの良き相談相手となり、新しいことに生涯チャレンジしつづけた先生はルーペとペンダントを組み合わせて“ルーペンダン”を発案して特許をとりました。外国旅行も切手の趣味もとことんやり抜き、どこから読みはじめても面白く読めるエッセイ集です。

この本は3つの章からなっており、第一章は高知県女医会の会誌を昭和32年から手がけて50年余りその中のエッセイをすべて集めました。また第二章は昭和15年東京女子医専を卒業したクラス会誌「ピンセット」を主宰し、クラスの結束を固め楽しむことにかけては全ての人を巻き込む遊びの達人でした。第三章は日本のみならず世界中の切手を収集するだけではなく、それにまつわる歴史的背景、社会情勢、エピソードなどを素人にもわかりやすく面白く解説しています。

この本は高知県女医会が編集しましたが、あらためて小出つる子先生の偉大さと純粋さに魅了されました。

高知支部
窪　斐子

「日本女医会」会員の皆さまへ

東京厚生信用組合は、医薬事業を営む皆様を対象として、昭和28年より協同組織の医薬専門の銀行業を営んでおります。

今後も日本女医会会員の皆様、大学医療機関の皆様、医療関係団体の皆様等に密着した金融機関として努力して参ります。

貴重なお時間を有効にお使いいただくため、訪問による相談業務を得意としております。

ご　融　資
・開業資金
・事業運営資金
・学術研究資金
・教育資金
・お車購入資金
• その他どんな事柄でもご相談くださいませ。

〈フリーダイヤル〉0120－294805（ふくしはえんご）

「人間・福祉・環境」にやさしい
東京厚生信用組合
本　店 新宿区西新宿6-2-18／浅草支店 台東区駒形1-1-12
小平支店 小平市美園町1-31-1／青梅支店 青梅市河辺町10-8-3

連載 第四回

第53回　日本女医会総会 講演会

「現代の忘れもの」

195号でご紹介させていただいた渡辺和子先生の
ご講演の全文を連載として紹介させていただいています。

心を亡ぼすもの

皆様がたのお仕事もお忙しいと思うんです。「忙しい」という字が、りっしんべんの「こころ」という字に「亡ぼす」と書きますように、忙しいことは、心を亡ぼす可能性を持っております。

私もお蔭さまで81歳でも忙しくしております。これは、ある一人の実業家のかたが定年を迎えて、ご自分を木こりに例えておっしゃったお言葉なのですが、「私は、今まで木を切るのに忙しくして斧をみるヒマを忘れていた。人よりも上手に手早く上等な木をたくさん切って、それなりの報酬も地位も名誉も受けた。しかし。もう木を切らなくてもいいですよ、と言われた時にみると、いままで木を切っていた斧はボロボロに欠けていた。忙しくしていたその合間に自分はなぜ斧をいたわってやらなかったか、油をさして砥いでやらなかったか、それが悔やまれる、とおっしゃっていました。私たちも、少なくとも私にとって、これは忘れてはいけない言葉なのです。「木を切るのに忙しくして斧をみるヒマを忘れていないか」、斧をみる「ヒマ」はleisureの「暇」ではなく、もとの意味は国語辞典に書いてございます「日の光の射しこむにつきて言う『日間』」のことです。今、このお部屋にはずっとカーテンが張り巡らされておりますけれども、このカーテンの隙間、隙間から入ってくるお日さまの光……その光を大事にして生きるかどうか……。もう、びっしりとスケジュールが詰まっている……それは、ありがたいことなんです。それだけ、私はお仕事ができる。また、皆様が私を必要として下さる。ありがたいことなのですけれども自分の生活の中にやはりお日さまが、パッと射しこむ心のゆとり……それは、人様へのやさしい言葉になってあらわれる。人様のお話をイライラしながら聞くのでなく、聴いてさしあげるゆとり、ご自分のお子様をお持ちのかたでございましたら、お子様のお話を聴いておあげになるそういうゆとりをお持ちになっていらっしゃるかどうか。そして、それを持たないと私たちにとっては、大きな損失になるのだろうと思います。

現代の忘れもの

マザーテレサの修道会は、「神の愛の宣教者 missionaries of charity」という名前を英語で持っておりまして、日本にも東京の他に4，5か所に支部があります。マザーの修道会のシスターたちは、インドで一番貧しい人たちが着るというサリーを着ていらして、お仕事といえば、人々が嫌がる肺結核、AIDS、ハンセン病の人達のお世話を我が身を顧みずしてしていらっしゃる……『無償の愛』ですよね。または、道端で死にかけているホームレスのかたたちを人間らしく死なせてやっていらっしゃる……名前をたずね、宗教をきいてあげる。そしてマザーとマザーの修道会のお偉いところは、決して無理にクリスチャンにしようとしないところで、ヒンズーはヒンズーで、仏教徒は仏教で、キリスト教はキリスト教で、イスラムはイスラムで葬ってやっていらっしゃいます。一人格として、この世の中に生まれた人の尊厳、名前を持った一人格、自分なりの宗教を自分の宗教としている一人格として、死なせてやっていらっしゃるのです。その修道会が世界共通にしているお仕事が「炊き出し」でございます。お腹を空かせて、食べるものがなくお仕事にもあぶれてしまった人々に、日本ならおにぎりと味噌汁、外国ならパンとスープを、列をなして並んでいる一人一人に渡してやっていらっしゃいます。私は何回かカルカッタの本部に伺いました。炊き出しで食べ物を渡し終えて帰ってきたシスターたちが、マザーに、今日は百何十人にわたしました、とご報告をします。「ごくろうさまでした」とねぎらったあとでマザーが必ず聞いていらしたのが「そのうちの何

人に、微笑みかけましたか？　そのうちの何人にスープボールを渡す時にちょっと手を触れて温もりを伝えましたか？　そのうちの何人に短い言葉がけをしてあげましたか？」ということで、「それを忘れていたらだめですよ」とおっしゃっていらっしゃいました。

そして、これが私たち忙しい人間にとってなかなか難しいことですけれども忘れてはいけない「現代の忘れもの」でございます。私達は忙しさのあまり、口もきかない、ロボットと同じような機械的な仕事のしかたで、優しさを失くしています。ゆとりを失くしています。お日さまの射しこむ光の隙間の「日間」を失って、スケジュールびっしり（空いているところにゴルフやマージャンが入っているのか存じませんが）（笑）。人間として、私の内的な内部的なゆとり、笑顔、やさしさ、思いやり、そういうものが、心を亡ぼすと書く「忙しさ」の中で忘れられていないだろうか……。マザーはそれをとても気にしていらっしゃいました。仕事をすることが自分たちの修道会の目的ではない。たしかに自分たちは福祉事業をしていると思われるでしょう。実際している、しかし、自分たちの仕事はいわゆる行政の福祉の仕事とは違う。『私たちは福祉事業はしていません。私たちにとって大切なのは数ではなくて一人一人の魂です』というのがマザーのお言葉でした。何十人に薬を飲ませた、何十人の独居老人を訪ねた、何十人に手当をした……それも決して悪いことではない、むしろ素晴らしいことだと思う。でも次から次へと機械的にロボットでもするようなしかたで仕事を私たちがしているとしたら勿体ないですよね。ロボットと人間の境界線が最近失われつつございます。人間とペットの境界線も失われつつございます。それを悪いと言っているのではないんですけれども、私たちが人間の尊厳を忘れて、自分の都合のよいことだけを考えていると、世の中は本当に大きな忘れものをして、いつのまにか収拾がつかないように道徳心が失われて、ひとりひとりが自分のことしか考えない、そういう恐ろしい世の中になる可能性がございます。だからマザーがおっしゃったように私たちにとって大切なのは、ひとりひとりの魂なのです。スープボールを渡してもらう度に微笑んでもらい、ちょっと温もりを伝えてもらい、「元気？」と短い言葉かけをしてもらって……言葉をかける方は大変です。渡す方は大変です。何十人、百何十人……でも、そこがロボットと人間が違うところなんですね。相手にとっては、その日、唯一の、初めての、そしてもしかしたら最後にもらう微笑み、やさしさ、温もり、言葉なのかもしれない……『何十人、百何十人であっても渡す方は、ひとりひとりを相手に渡す……それがロボットとあなたがたの違いなんですよ』ということをマザーは言おうとなすったんだと思います。私たちは忙しいと、つい機械的に「はい次、はい次……」となりがちでございます。私も学長をしておりました時に、学長室はいつでも誰でも入ってきて良いことになっておりましたが、忙しい時ですと、学生が入って参ります時、迎えかたが違うんですね……「何の用？」。そうしますと学生はびっくりしたように「すいませんシスター、あのいいんです。今すぐでなくていいんです」と。で、後で私は自分を責めました。「何の用？ What's your business? 」……仕事がなかったら、用事がなかったらシスターと話をしてはいけないのか……忙しいからです。その忙しさを身体全体で表していたと思います。「何の用？」ではなく「あっ、いらっしゃい」、「お座りなさい」と言えばいい。そして相手が口を開くのを待っていたらいい。でもシスターそんなヒマありませんと、おっしゃるでしょう（笑）、私にもそういう時代がございましたから。今でも、ときたま「ああこんな時に電話が鳴って……」と、昨日も藤川先生から電話をいただいた時「何ですか？」と言ってしまった気がします。「ごめんなさいね」（笑）。「渡辺でございます」と、こう優しく出ればよかったのに……。私たちは木を切るのに忙しく斧をみるヒマを忘れることがございます。（笑）

便利さが失わせるもの

私たちが生きている2008年それも5月は半ばを過ぎましたけれど、21世紀というのは文明のますます発達していく時代だと思います。それはとても良いことでしょう。ありがたいと言ってもよいかもしれませんね。ある方が、「文明というのは、人が一人でも生きることを可能にするものを創りだす」と言いました。本当にそうかもしれませんね。

私は昨日、山形県の鶴岡から帰ってきたのですが、田んぼには全部、水が張ってあって苗が植わっておりました。飛行機から眺めてとてもきれいでした。かつては、田植えは、近所が総出でしたと聞いております。今は、おひとかたが、機械を使って、ご自分でできる時になさいます。それは便利でしょう。足も汚れない、手も汚れない、そして村のかたたちに頭を下げずに済む、また、他のかたたちのお手伝いにいかなくて済む。兼業農家にとって、それはありがたく便利なこと。ものごとが一人で済ませられる文明の利器が横行して便利になりました。

私がよく思いますのは「自動ドア」のことです。かつては車椅子のかたは、どなたかに開けていただかなければ通れなかった、そして閉めていただかなければ閉められなかった。それが、今は、前に行きさえすれば開き、何もしなくても閉まってくれます。これはありがたいことだと思います。かつては、よく学生達に「あなたがたね、お歳を召したかた、お身体の悪いかたをお見かけしたら、走

って行くのよ！　そして、ドアをお開けして、お通しして、後からお通りになる方があるかどうかを見てから閉めなさい」と言ったものでございます。今は言う必要がなくなりました。もちろん他の事にこと寄せて学生達に教えておりますけれども、ドアは多くの場合、自動ドアであり、他に障害者用のさまざまな便利なものが増え、仕組みができました。

私も81歳になりまして、やはり昔と比べてかつてトントンとできていたことが、できなくなって、昔よりも時間がかかります。ステロイドの副作用で背が低くなりましたために、昔だったら自分で上げていたものを「シスター済みません。高いところに届かないので、上げてくださいませんか？」と言わなくてはならない……それは、ある意味、悲しいこと、恥ずかしいこと、ある意味の辱しめ……。でも、それは必要なことなのです。自分がつくづくと思いますのは、人様にお助けを頼むということは、ある意味で面倒なこと、嫌なこと……。ところが文明は次々と自分一人で操作すればできるものを生みだす。コンビニは24時間開いていて、ほとんどなんでもそこで用が足りて便利です。でも、その便利の反面、「現代のわすれもの」は、人様をお手伝いしようという気持ち……、それを私たちはだんだん失くしてきていると思います。

無関心と挨拶

マザーテレサがよくおっしゃっていました。愛の反対は、憎しみではありません。愛の反対は無関心です、と。憎しみというのは愛の裏返しです。「可愛さ余って憎さ百倍」という言葉が日本語にございます。未だ憎いだけ気になる訳ですよね。時には仕返しをしてやろうかと思うほど気になる。ところが、もっと怖いのは、その人が居るか居ないかさえ、私には関心がない。……つまり、愛の欠如でございます。「憎しみ」は愛の裏返し、それに対して「愛がないこと」それが「無関心」だとマザーはよくおっしゃっていました。

だから、私たちがもっとお互い同士、微笑みあい、言葉をかけあい（もちろん、必要な時にですけれども）そして、ある意味の温もりを伝えあうこと……親子の間でもそう、夫婦の間でも必要だろうと思います。

私は、今、修道院に10人で住んでおりますけれども、朝、やっぱり「おはようございます」とお互い同士言う約束を致しました。「だって、一緒に住んでいるし、一緒に御ミサに与るんだから、言う必要はないでしょう」とおっしゃったかたがシスター達の中にいらしたんですけれども、私ども「挨拶する派」が頑張りまして、「おはようございます」と言って食堂に入りましょうと決めました。そして、今、最初は「おはよう」とおっしゃらなかった方も最近、おっしゃるようになりました。こちらも元気よく「おはようございます！」と言って応えて差しあげるようになりましたら、何となく修道院が明るくなるんですよね。

これ、ご家庭でも同じだと思います。言う必要ないわ、と思っていらっしゃるかもしれない。でも、言うと言わないとで、違うんですよ。試してごらんになったらいい。

そして、やはり慣れっこになってしまってお互いを褒めることを忘れていたり致しますね。夫が妻を、妻が夫を、親が子供を、子供が親を、お互い同士、何でもいいからほめる。人からされて嬉しいことは人にする。人からされてつらかったことは、人にしない。これはゴールデンルールまたはシルバールールと呼ばれているキリスト教の、割に大きなルールでございます。何でもない、神様なんの、と言わなくても、とにかく自分がされて嬉しかったことは人様にもして差しあげる。自分がされてつらかったことは人様を思いやって、しないように気をつける（もちろん、お節介とのボーダーラインをきちっとしなければいけないんですけれども）。

【紙面の都合上、連載は今回で終了させていただきます。日本女医会のHPに全文を掲載しておりますので、続きはそちらでご覧ください。】

渡辺和子 先生（シスター渡辺）

Profile

昭和２年旭川生まれ。父上は渡辺錠太郎陸軍教育総監（陸軍大将）。昭和11年（９歳）、二・二六事件により、父上が銃弾に倒れる姿を目撃するという衝撃的な体験をされる。その後、雙葉高等女学校、聖心女子大学をご卒業、昭和29年上智大学大学院を修了。昭和31年（29歳）ナミュール・ノートルダム修道女会に入会。同会よりアメリカに派遣されボストン・カレッジ大学院にて哲学博士号を取得後、帰国。昭和38年、36歳という異例の若さでノートルダム清心女子大学学長にご就任（平成２年まで）。昭和49年岡山県文化賞受賞。平成２年ノートルダム清心女子大学名誉学長、学校法人ノートルダム清心学園理事長。平成４年～平成13年　日本カトリック学校連合会理事長。

ご活躍の陰でご苦労も多く、50歳の時にはうつ病の経験も。しかし病を乗り越え、学生たちを常に温かく見守り、教育者として、シスターとして多方面で功績を残していらっしゃいます。

著作『心に愛がなければ』『信じる愛、持っていますか』『人をそだてる』（PHP文庫）など多数。

日本女医会よりご案内

日本女医会 吉岡弥生賞 推せんについて

平成21年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、平成21年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1.自筆履歴書
2.業績
イ)医学に貢献した現会員。
ロ)社会に貢献した現会員。
3.推せん理由

日本女医会 荻野吟子賞 推せんについて

平成21年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成21年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動に対する助成のご案内

平成21年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申しあげます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成21年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会　事業部

第30回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1.助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2.助成金額

1件30～50万円(3件)

3.申込手続

(1)応募資格

入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ（ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること）

(2)助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

(3)応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4)締切期日

平成21年12月25日必着

(5)選考および発表方法

選考委員会において選考の上、平成22年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6)助成金の贈呈

平成22年5月開催の日本女医会総会の席上。

(7)受賞者の本会に対する義務

平成23年3月末日までに研究経過報告（A4原稿用紙2枚程度）と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8)送り先

社団法人 日本女医会
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷2-8-7
☎03-3498-0571

gsk GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

子宮頸がん疾患情報

http://glaxosmithkline.co.jp/medical/cervical/index.html

▲子宮頸がんの疫学、診断、治療、および発がん性HPVについて、簡単にご紹介しています。

グラクソ・スミスクラインでは、弊社の医療関係者向けwebサイトに、子宮頸がんの疫学、診断、発がん性HPVとのかかわりなどについてご紹介した「子宮頸がん疾患情報」コーナーを開設しております。
また、本コーナーでは、疾患啓発小冊子のオンラインオーダーなどもご利用いただけます。ぜひ、ご覧ください。

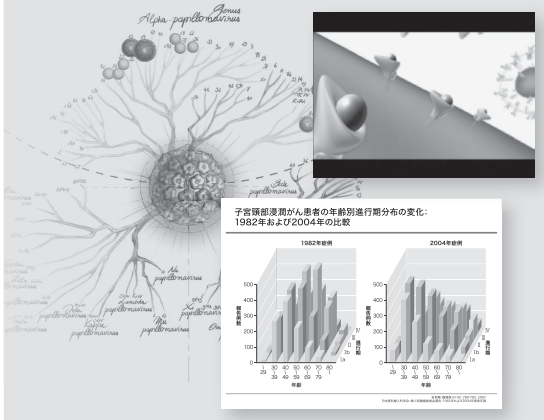
オンライン説明会

▲子宮頸がんおよびHPVに関する情報を、スライドショー形式でご紹介します。

子宮頸がんクイズ

▲子宮頸がんについての知識をクイズ形式でご確認いただけます。

メール情報サービスGSK eダイレクトにご登録いただきますと、**会員専用サイトClub GSKのオリジナルコンテンツ【子宮頸がんライブラリー】**もご利用いただけます。クリップアートやスライドのダウンロードなど、先生のご診療やご講演にお役立ていただけるコンテンツをご用意しております。



子宮頸がんライブラリー

- **オンラインセミナー**
  - ・“子宮頸がんは予防できる” ～ワクチンと検診の精度管理～ 等
- **アニメーションビデオ**
  - ・アニメーションビデオ『HPVと子宮頸がんの発症』
- **クリップアート**
  - ・生殖器(女性)
  - ・HPV－子宮頸がん
  - ・免疫関連 等
- **スライドセット**
  - ・疫学(スライド枚数：10枚 745kb)
  - ・ヒトパピローマウイルスと子宮頸がん(スライド枚数：20枚 1661kb)

ご登録はこちら➡http://glaxosmithkline.co.jp/medical/cervical/infoclubgsk.html

[資料請求・問い合わせ先]
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4－6－15
TEL：0120-561-007(9:00～18:00／土日祝日および当社休業日を除く)
FAX：0120-561-047(24時間受付)
http://www.glaxosmithkline.co.jp

15CM0014

2009年6月作成

(((理事会議事録)))

日　時：平成21年6月20日(土)
　　午後3時
場　所：社団法人日本女医会会議室
出席者：小田、津田、松井、山崎、荒木、小関、川村、古賀、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、濱田、藤川、宮﨑、宮本、山田、山本、吉馴、中井（21名）
欠席者：秋葉、安部、内潟、澤口、矢口、森川（6名）

4月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 今野信子先生が6月15日に亡くなられた。ご冥福をお祈りしたい。
2. 無事に総会が終了した。役員皆様のご協力に感謝申し上げる。
　評議員会、総会とも時間不足であった。今後役員会を含めた議事録全般の整備を行いたい。映像を流したのは良かった。
3. 次回総会、次々回総会、国際女医会西太平洋地域会議の企画についても全員の協力をお願いしたい。
4. 埼玉県で女性医師支援に3億円の予算がつき、埼玉支部長の村田先生が使い方を考えていらっしゃる。日本女医会としてもできることは協力したい。
5. 総会で愛知支部の新美先生が発言された「若い女性の子育て支援に関するアンケート」は実行したいと思う。
6. 「HPVワクチン」の認可遅れは「十代の性と健康」と同様、女性差別ではないか。これからも考えていかなくてはならない。
7. 発展途上国では人口の25%以上を占めている若者の数と同じ位の老人が増えていて、大きな問題となっている。また、カソリック教が未だにリプロダクティブヘルスについての認識が浅い。これも男性優位認識が根底にある。ブラジルで大司教の発言、アフリカでローマ法王ベネディクト16世の発言、イスラム教では児童婚等。我々はセンシティブ、且つアクティブでありたいと思う。
8. 各支部での総会の日程が重なっている。できるだけ役員が分担して出席したいが、失礼をする事もあるのでお許し願いたい。

【報告事項】

1. 庶務報告　（宮本理事）
　理事会を開催（4/25）。第54回定時評議員会（5/16）、第54回定時総会（5/17）を大阪・ホテルグランヴィア大阪にて開催。
2. 会計報告　（高原理事）
　4月分、5月分を承認。
3. 事業部報告　（藤川理事）
　6月26日開催の「内閣府・男女共同参画全国会議」パネル展示に日本女医会のポスター（資料2）の作成を検討、承認される。今後「写真で見る日本女医会史」のようなポスターの作成を希望。いずれも耐水、折りたたみでの持ち運び可能。
4. 渉外部報告
1) 国際人権規約完全実施促進連絡会に出席　（川村理事　4/25）
2) 内閣府男女共同参画推進連携会議企画委員会主催「第43回聞く会」に出席
　（松井副会長、山本理事　5/13）
3) 国際婦人年連絡会総会に出席
　（松井副会長　5/29）
　今までは「環境委員会」に属していたが、今後は「家庭福祉委員会」として活動する。「資料3」の要望書については日本女医会として賛成の意見を出す。
5. 学術部報告　（荒木理事）
　学術講演会として開催はせずに、今年はHP上に様々なトピックスを取り上げて連載。また今までに学術研究助成を授与された方々の研究成果、又その後の活躍等を掲載する。予算の範囲内で行う。学術講習会開催等の詳細は次回理事会で報告したいと思う。
6. 広報部報告　（対馬理事）
　会誌199号の発行に向けて準備中。次号10月発行の会誌は「200号」の記念誌となるので、内容については次回理事会で検討したい。
7. 委員会報告
1) 子育て委員会　（対馬理事）
　第1回委員会を開催（4/26）。昨年同様に各4地区で連絡協議会を開催予定。
2) 長寿社会福祉委員会
　（松井副会長）
　第1回委員会を開催（5/22）。「第3回在宅高齢者の栄養管理講習会」を6月13日に神奈川で開催。7月4日に岐阜、8月8日に北海道、11月7日に群馬で開催する。
3) 女性医師支援委員会　（荒木理事）
　発行本原稿のお礼が述べられた。年内には発刊予定である。
4) NC報告（小田会長、津田副会長）
　2011年の西太平洋地域会議を各支部の皆様に周知して多くの方に参加していただきたい。東京都助成財団に海外招聘者への助成金を申請中。
津田副会長より、委員会と他の会議とが重ならないよう開催日の調整依頼があった。

【審議事項】

1. 第54回定時評議員会、定時総会の反省　（承認、一部継続審議）
1) 評議員会で可決された案が総会で否決されたことについて反省。
2) 今後事業計画・事業計画案を十分に練りあげて、わかり易く会務報告に記載する。
3) 理事が答弁をする席が必要であるとの提案があり、執行部（理事等）と会員とが対面できるように会場のレイアウトを再考する。
4) 審議が十分に尽くせなかったことから、今後は評議員会、総会の時間を30分位延長する。
5) 議長の選出方法も検討する。
6) 今後、事業案については各担当部で答弁してはどうかとの意見がだされた。　（継続審議）
2. 総会報告書の作成について
　（継続審議）
小田会長より提案がなされた。

1）総会、評議員会議事録の内容を見直した。今年は「定款改正」の申請を厚生労働省に提出するので詳細を載せた内容としたが、今後も同様な形式で作成する。
2）今年度の総会議事録を回覧し、理事会の終了前に会員全員に詳細な議事録を送付するか否かの意見を募るとの提案がなされたが、時間の都合上6月20日の理事会では審議できず、次回の継続審議とした。

3. 女性医師支援委員会　（承認）
1）荒木理事より、問題を提起しても委員の賛意の確認がしにくい等、今年度の委員会の運営の仕方について問題提起がなされ、活発な討論となった。
　委員会は各部の代表ではなく希望者により構成されているので、理事会での位置づけ、今後のあり方を検討する必要がある。
　女性医師支援は日本女医会活動の根底をなすものであり、「女性医師支援委員会」が日本女医会活動のシンクタンク的役割を担う。
女性支援委員会で検討した事項を理事会で承認し、事業部が活動する、という結論に至った。
2）女性医師関連ライブラリーについて
　HPに女性医師関連情報を掲載する。荒木理事がネットから情報を収集済み。
3）女性医師支援ネットワーク（リンク集）について
　全国各地で受けられる女性支援について、各支部の方から多くの情報提供を得て、役立つ各地域の情報を載せて行きたい。
4）本年度の事業について：メンバーと活動内容について
　キャリアアップセミナーは「リーダーシップの育成」について他の分野の方も講師として検討したい。

4. 新卒会員の会費について　（継続審議）
庶務部で案を提出する予定。

5. HPおよび入会案内リーフレット　（承認）
1）リーフレットは装丁を整え作成する。
2）ホームページは
　(1)「支部との関連のページ」、「委員会のページ」、「各部のページ」を設置
　(2)「リンク集」何をリンクするかは理事会で承認を得てから載せる。「北から南から」も復活させる。
　(3)「心と健康」については宮崎理事を中心に準備を進めている。
　(4) 学術部「女性医師関連ライブラリー」について（株）ユート井上氏から説明を受ける。今後ＨＰに載せて良いと思われるものは理事会の承認なしでアップし、その後ＨＰを見て判断する。

6. 公益社団法人に関わる件（定款の進捗状況）　（承認）
2009年6月18日に厚生労働省に「定款改正に関する書類一式」を提出。定款改正が認可されたら、次に「新しい公益法人制度」に即した「定款改正」の必要がある。その改正については専門家に委託することが承認された。

7. ブロック懇談会（福島）　（承認）
2009年9月13日（日）福島で開催。参加出来る理事の確認がなされた（小田会長、津田副会長、松井副会長、山崎副会長、小関理事、川村理事、古賀理事、対馬理事、宮崎理事の9名が参加予定）

8. 女子医学生と語る会の開催について　（継続審議）
事業部より「女子医学生と語る会（仮称）」を関東中心に開催したい旨の提案があった。次回理事会に資料を作成して再提出する。

9. その他
1）職員夏期賞与について
2）文書番号　（継続審議）
文書番号の付け方を含む日本女医会文書管理規定について藤川理事が策定を提案した。策定に向けて今後の理事会で再検討する。
3）6月6日読売新聞「厚労省方針特養介護職の医療行為を容認」記事に関し、日本女医会が何か参加できるか、松井副会長が問い合わせる。

今後理事会議事録は早く作成し、継続審議は必ず次の理事会の議題とする。　以上

日　時：平成21年7月18日(土)午後3時
場　所：社団法人日本女医会 会議室
出席者：小田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、内潟、小関、川村、古賀、澤口、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、宮崎、宮本、矢口、山田、吉馴、中井、森川（23名）
欠席者：津田、濱田、藤川、山本（4名）

6月理事会議事録を承認

【会長挨拶】
1. 岐阜市で開催された長寿社会福祉委員会「在宅高齢者の栄養管理」の講習会に出席した。岐阜市医師会のご協力と宮崎先生に感謝申し上げる。
2. 参議院議員の西島先生の選挙活動が始動し、本日日本医師連盟の方が訪問された。持参された資料を回覧するのでご覧になって頂きたい。
3. 医事新報「プラタナス」に寄稿したのでご覧になって頂きたい。
4. 女性医師支援委員会が「保育所」をテーマに企画しているようで、まさにタイムリーな良い事と思う。
5. 厚生労働省が地域医療再生計画に3,100億円の予算をつけた。私は働く女性の環境整備の充実のため、理想的な保育園機能整備を宮城県に提案した。県から国に申請し、決定されたら来年の予算編成されることとなる。もし、モデル案として参考にされる方があれ

ばお申し出を頂きたい。

6.「子宮頸がん検診」の無料クーポンが今年9月から20～40歳、5年毎の検診に支給されることになった。他科に受診の女性にも周知してほしい。

7. 日本医師会女性医師バンクより「平成21年度女子医学生、研修医等をサポートするための会」の日医共催について昨年同様上限30万円の費用補助募集の連絡があった。

【報告事項】

1. 庶務報告　（古賀理事）

1) 理事会を開催（6/20）

2) 吉馴理事、内閣府「平成21年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に於いてポスター展示の報告（6/26）

3) 職員に夏季ボーナスを支給（7/10）

山崎副会長より埼玉支部総会に出席の報告（7/12）

5) 松井副会長より神奈川支部総会に出席の報告（7/12）

古賀理事より7月11日宮城県女医会総会への祝電に対する謝辞があった。

6) 会員動静、その他の報告

2. 会計報告　（塚田理事）

6月分を承認。

3. 事業部報告（吉馴理事）

第1回「日本女医会chat room」開催の件を後ほど審議致したい。

4. 渉外部報告

1) 内閣府特命担当大臣との懇談会に出席　（松井副会長　6/26）

2) 内閣府男女共同参画推進連携会議･全体会及び情報交換会に出席。新しい試みとして「国と各都道府県との連携」を立ち上げた。

（松井副会長　7/3）

3) 国連NGO国内婦人委員会総会に出席。その席上「第22・23回日本・アラブ女性交流」の報告をした。今まではアラブ訪問と訪日団受け入れを1年間で行っていたが、今後、外務省の予算上、アラブ訪問と訪日団の受け入れを1回ずつ2年間で行う事業となった。

（矢口理事　7/8）

5. 広報部報告（対馬理事）

会誌199号は7月8日に編集会議を行った。7月24日発送の予定。

6. 学術部報告　（内潟理事）

ホームページに新しいコンテンツとして「学術研究助成受賞者の軌跡」と「トピックス」の掲載作業を進行中。

7. 委員会報告

1) 子育て委員会　（対馬理事）

ゆいネット連絡協議会を6月24日札幌で開催。7月23日には盛岡で開催する。今年度の事業である「第二次モデル地域募集」へ協力を依頼。

福祉医療機構でヒアリングがあった。助成金の基準も厳しくなっている（7/15）。

2) 長寿社会福祉委員会(松井副会長)「第4回在宅高齢者の栄養管理講習会」を岐阜市医師会の後援を受け、7月4日に岐阜で開催。8月8日に北海道、11月7日には群馬で開催する。

3) 女性医師支援委員会（荒木理事）

6月理事会で検討された「ライブラリー」はHPに第1回目のアップがされた。

発行本の表紙もほぼ決まり、1～2ヵ月後に発行予定。協力への謝辞があった。

4) NC報告　（内潟理事）

前の国際女医会会長（現国際女医会事務局長）のDr. Shelly Rossの手紙の紹介。国際女医会本部へ「第22･23回日本アラブ女性交流」事業、大森会員と小野会員の受賞お祝い、2011年西太平洋地域会議の日程決定等は報告済み。

山崎副会長より、7月17日に郵貯銀行に預けていた特別会計の国債1000万円が満期になり、今回は利率の良い同銀行の定期として預金した旨の報告。

【継続審議事項】

1. 総会議事録作成と配布先について

（小田会長　承認）

今までは詳細な総会議事録は作成していなかったが、今回作成したので、社団法人会員としての自覚を持ってもらうためにも、会員全員に送付したいとの提案理由の説明があった。

会員への総会結果の周知は社団法人としての義務であり、議事録は公開すべきものであるから、特に希望のある人は直接事務局に問い合わすことも可能であるから、今までどおりの簡単な議事録で良いのではないか、との反対意見も多くあった。ホームページにアップ、希望者のみに送付等の方法論も出されたが、印刷として送っても実際に見る人が何人いるかとの疑問も出た。決をとり、賛成12名、反対7名、棄権1名で、今回は送付することに決定。

2. 新卒会員の会費について

（小関理事　継続審議）

5月の総会で新卒会員の会費を無料にする案が否決されたことにより、改めて検討することになり、資料7に基づき「会費（案）」の説明があった。庶務部が役員各自の意見を伺い、来年の総会までに纏める。

【審議事項】

1. キャリアデザインセミナー2009（案）　（荒木理事　承認）

先月理事会でセミナー開催が決定されたので、10月25日（日曜日）10時30分から16時で「女性と仕事の未来館」を予約した。

内容として、荒木（案）として「リーダーシップ力のある女性医師（次の世代の医師）を目指してそのような方を講師にする」、「働く女性としては常にバリアとなる「保育」に焦点を絞る」。藤川理事（案）として「学会女性部会」の方をお呼びして組織的なパワーアップを話して頂く、が挙げられた。検討した結果、荒木（案）に決定。今回は自分達が勉強するためのセミナーとする。

2. 国際女医会西太平洋地域会議

（内潟理事　承認）

（資料9）に基づき平成5年（1993年）の「第5回国際女医会西太平洋地域会議」の収支決算書と2011年「第10回国際女医会西太平洋地域会議」

の収支予算案の説明があった。第5回の時は余剰金があり「基金口・西太平洋地域会議記念分」として1000万円の基金を作ることができた。その基金を第10回の準備金として使用することを満場一致で承認された。

今後、組織委員会を形成し徐々に準備を進めていく。

3. 広報部から　（対馬理事　承認）

1）10月発行される日本女医会誌が「200号記念誌」となる。広報部で検討した目次（案）を（資料10）に基づき説明があった。元会長、副会長からもご寄稿を頂く。広告募集の協力要請があった。

2）ホームページのバナー広告は最初の予測と内容の違いが大きく、削除したとの報告。

4. 第1回『日本女医会 chat room』開催　（田中理事　承認）

（資料11）に基づき説明。7月26日、日本女医会会議室で、テーマ「女性医師の人生設計 ～女性医師の結婚を考える～」として「第1回日本女医会医学生chat room」を開催することを承認。今後は審議事項として計画的に且つ時間に余裕を持って理事会で諮る。事業結果を報告すること。

5. 公文書に関わる一時雇用について　（小田会長　承認）

新しい公益法人制度への移行に関する書類作り等のため、公文書作成の経験ある人材の一時雇用が承認された。

6. その他

・HPへリンク依頼（澁谷理事　承認）

愛知支部加藤会員よりHPへリンク依頼（資料12）があり、承認される。

今後このような依頼を受けた場合は広報一任の決定も承認される。但し期日過ぎたら必ず消去する。

・HP「心と体の相談室」について　（宮﨑理事　承認）

HPの新コンテンツ「心と体の相談室」の担当者の推薦を募った。皮膚科には田中理事と塚田理事、眼科は小田会長からの推薦者、耳鼻科は角田前副会長に依頼する。

初回は「子宮頸がん検診のクーポン券」について。質問が約100字、対馬理事と宮﨑理事が担当。

以上

会員動静（2009年9月12日現在・敬称略）

入会	高梨由美子	（昭57年卒）	青森
	河野　美子	（平4年卒）	千葉
	川内　淳子	（昭56年卒）	足立
	鈴木　里香	（平7年卒）	足立
	小川　頼子	（昭52年卒）	世田谷
	小松　素子	（昭55年卒）	世田谷
	高根　歩美	（平20年卒）	中野
	野田　泰子	（昭59年卒）	文京
	福島美津子	（昭40年卒）	文京
	川井未加子	（昭54年卒）	神奈川
	橋本　節子	（昭49年卒）	神奈川
	吉永　香織	（昭55年卒）	神奈川
	斉城　洋子	（昭54年卒）	愛知
	淺田　美佐	（昭61年卒）	愛知
	廣瀬　玲子	（昭63年卒）	岐阜
	佐々木綾子	（昭54年卒）	新潟
	板谷　優子	（平16年卒）	富山
退会	5名		
物故	柿木　ヒデ	（昭19年卒）	北海道
	出口　雪枝	（昭12年卒）	埼玉
	内藤　澄子	（昭19年卒）	北

編集後記

記念すべき日本女医会誌200号は、世界が不況にあえぐなか、我が国では長く続いた自民党政権が崩壊して民主党政権に替わり、アメリカではオバマ大統領がノーベル平和賞をもらうことになって、世界が対話、非核化、地球温暖化対策へと動きだしたその秋に、発行されることになりました。今年2009年は、長く皆の記憶に残る年になるに違いありません。

しかし、日々めまぐるしく移り変わる現代においても、大事なことは普遍であると思われます。われわれ女性医師は、昔から、ひとりひとりの命の尊厳と、心身の健康と、家庭や地域の安心を守るために働いてきました。特に、女性と子どもを助け老人をいたわる姿勢は、ずっと変わらない世界の女性医師たちのスタンスでもあります。

現代の女性は、昔よりもずっと忙しく、役割は多彩になっています。いまさら女性が集まって何をするのかと懐疑的な声が聞こえることもあります。しかしいまも大事なのは、社会的にも使命を担う女性医師が、日常の診療や自己の利益に埋没せず、助け合い、支えあい、引き上げあっていっしょに高い目標を目指すこと。これは決して古い考えではありません。普遍的な大事なことです。新しい明日の世界を作るために、女性医師が力を結集してまいりましょう。女性医師会誌やホームページがその一助になることを願い、先生方の積極的なご発言をお待ち申し上げております。（対馬）

日本女医会誌

復刊第200号　2009年10月25日発行
編集人　対馬ルリ子
発行人　小田泰子
制作　あづま堂印刷株式会社
発行所　社団法人 日本女医会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7青山宮野ビル
TEL 03-3498-0571　FAX 03-3498-8769
http://www.jmwa.or.jp
e-mail : office@jmwa.or.jp